

2020年3月期決算概要

2020年5月18日

テルモ株式会社

Chief Accounting and Financial Officer

武藤 直樹



CAFOの武藤でございます。2020年3月期決算の概要について説明いたします。

新型コロナの影響あるも、売上・営利が過去最高

(億円)

	18年度	19年度	増減率	為替除く増減率
売上収益	5,995	6,289	+5%	+8%
売上総利益	3,265 (54.5%)	3,439 (54.7%)	+5%	+9%
一般管理費	1,787 (29.8%)	1,845 (29.3%)	+3%	+6%
研究開発費	477 (8.0%)	506 (8.0%)	+6%	+8%
その他収益費用	65	18	-	-
営業利益	1,066 (17.8%)	1,106 (17.6%)	+4%	+11%
調整後営業利益	1,221 (20.4%)	1,250 (19.9%)	+2%	+9%
税引前利益	1,027 (17.1%)	1,065 (16.9%)	+4%	
当期利益	795 (13.3%)	852 (13.5%)	+7%	

期中平均レート	USD	111円	109円
	EUR	128円	121円

- 売上収益：全カンパニーでプラス伸長。Q4において中国中心に新型コロナの影響受けるも軽微
- 調整後営業利益：高収益品の売上増に加え、心臓血管において一部費用未消化
- 当期利益：為替差損が対前年比で縮小（38→35億円）

©TERUMO CORPORATION

2 / 28

TERUMO

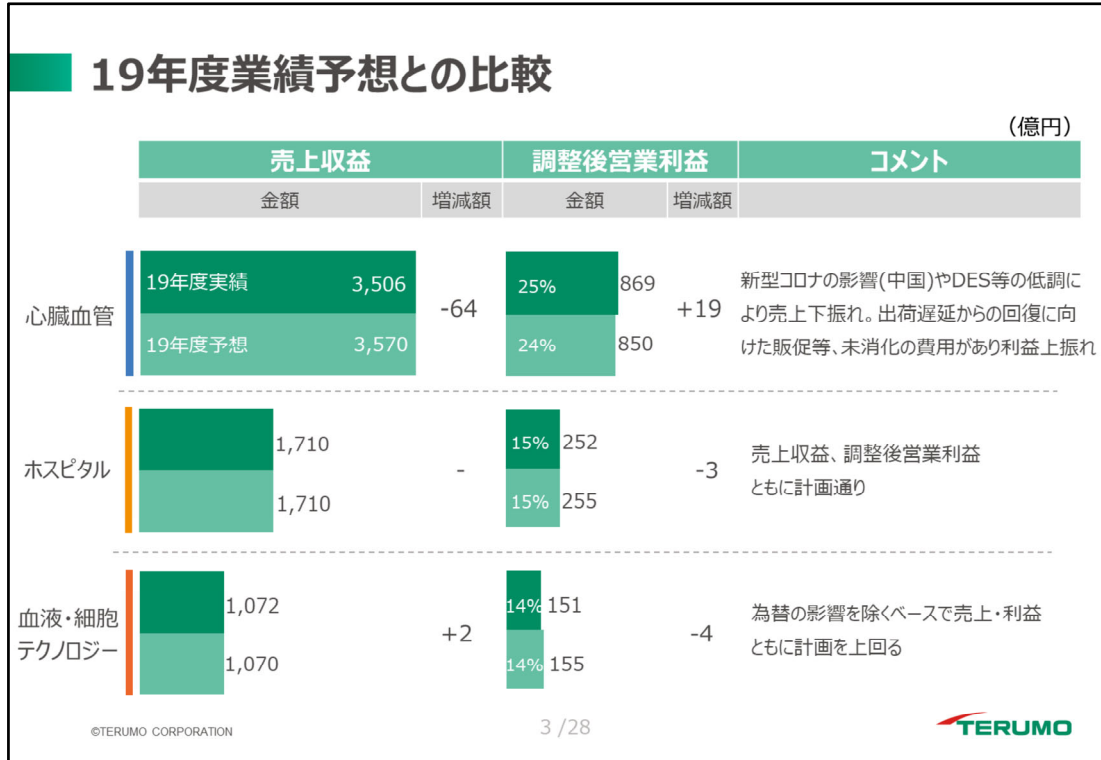
初めに全体総括です。

タイトルにありますように、一部新型コロナの影響をうけたものの、売上収益と営業利益において過去最高の結果となりました。

売上収益は、Q4の中国における心臓血管を中心に、新型コロナの影響を受けましたが、19年度全体への影響度としては軽微に留まりました。全カンパニーで増収となり、総体で5%の伸長、為替を除くベースでは8%伸長となりました。

調整後営業利益は、各カンパニーにおいて高収益品の売上が増加したことに加え、上期に心臓血管において好調な業績を鑑み、一部、販促費などを使わずに済んだことも寄与し、為替影響を除くベースで9%伸長、営業利益は11%伸長と二桁増益となりました。

当期利益においては、前年同期比で、為替差損の縮小なども寄与し7%の増益となりました。

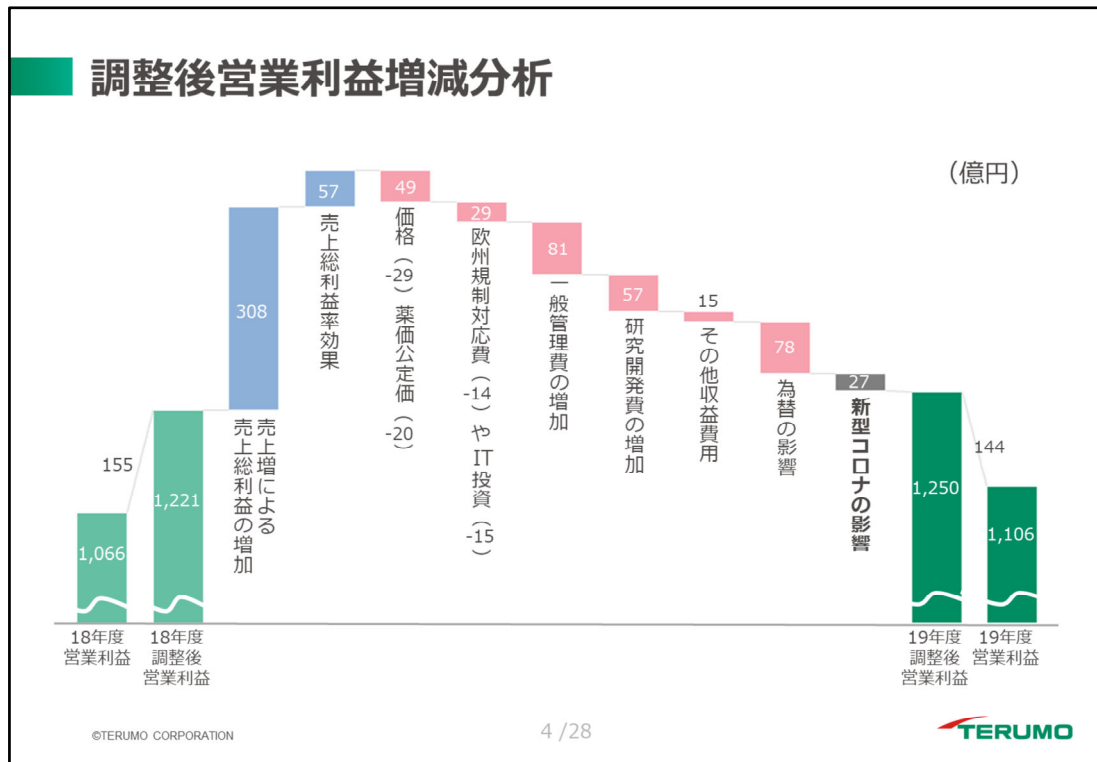


19年度期初に発表しましたガイダンスとの比較です。

心臓血管では、Q4における新型コロナの影響に加え、国内などでDESの販売が低調に推移したことにより、売上はガイダンスに対し下振れとなりました。一方調整後営業利益は、出荷遅延のリカバリー費用などを使わずに済んだこともあり、予想に対し19億円の上振れとなりました。

ホスピタルは売上、利益ともに計画どおりの着地、血液・細胞テクノロジーにおいては、為替の影響を除くベースで売上、利益ともに計画を上回る結果となりました。

なお、今期より「血液システムカンパニー」の名称を、「血液・細胞テクノロジーカンパニー」と変更しております。売上収益も1,000億円を超え、事業体としても、輸血関連の製品だけでなく、アフェシス治療や細胞療法に関連する治療技術へと拡大しており、よりの確に業態を表すべく名称変更いたしました。



前年同期比での調整後営業利益の増減分析です。

「売上増による売上総利益の増加」は、心臓血管のTISと血液・細胞テクノロジーの一部の製品において物量が想定よりも低かったため、308億円と、通期ガイダンスの330億円を下回りました。

「売上総利益率効果」は、心臓血管の事業ミックス改善に加え、生産コストダウンが順調に進み、57億円と、通期ガイダンスの48億円を上回りました。

「価格下落」では、血液・細胞テクノロジーにおいて、成分採血装置Trimaにおける新しいソフトウェア導入が価格下落を抑制したとともに、カンパニー全体で価格下落が想定以下にとどまり、29億円と、想定50億円よりも小さくなりました。

薬価公定価改定の影響は、20億円と、通期ガイダンスと比べ小さくなりました。心臓血管において、売上が想定を下回ったことに加え、一部の顧客において新価格の妥結時期が遅れたことも背景にあります。

「欧州規制対応費」は、通期ガイダンスの32億円に対し実績は14億円となりました。下期、特にQ4に費用支出は増えましたが、3月に予定されていたシステム監査などの期ズレがあったことに加え、一部、更新品目の見直しや試験期間などの短縮があり、想定よりも支出が抑えられました。いずれにしても、概ね準備は順調に進んでおります。

「IT投資」の償却費用は通期ガイダンス通りの実績となりました。

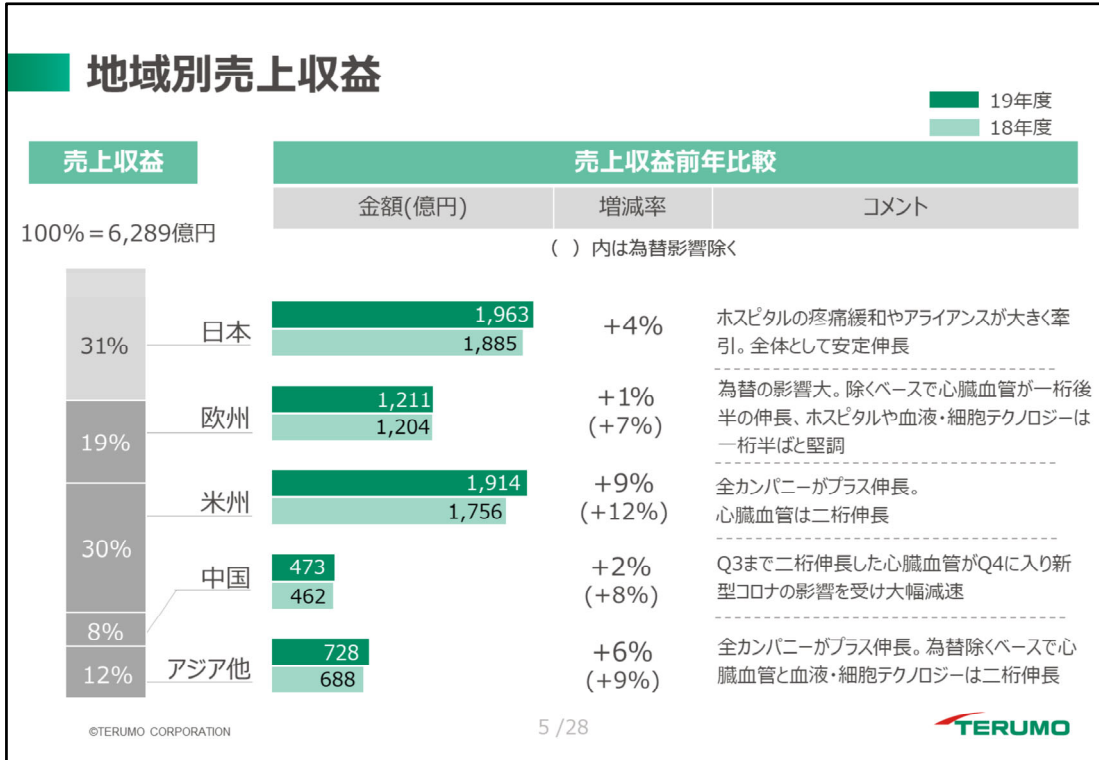
「一般管理費の増加」は、通期ガイダンスの125億円に対し、81億円の実績となりました。上期にTISの出荷遅延のリカバリー費用を見込んでいましたが、ビジネスが堅調

で未消化となったことに加え、ニューロのWEBの想定以上の需要の中、費用が抑えられたことなどが背景です。

「研究開発費」は、通期ガイダンス通りの57億円の実績です。

「為替の影響」は、下期に入り、ユーロ、中国元、新興国通貨など、いずれの通貨も円高に推移し、通期ガイダンスの50億円を上回る、78億円となりました。

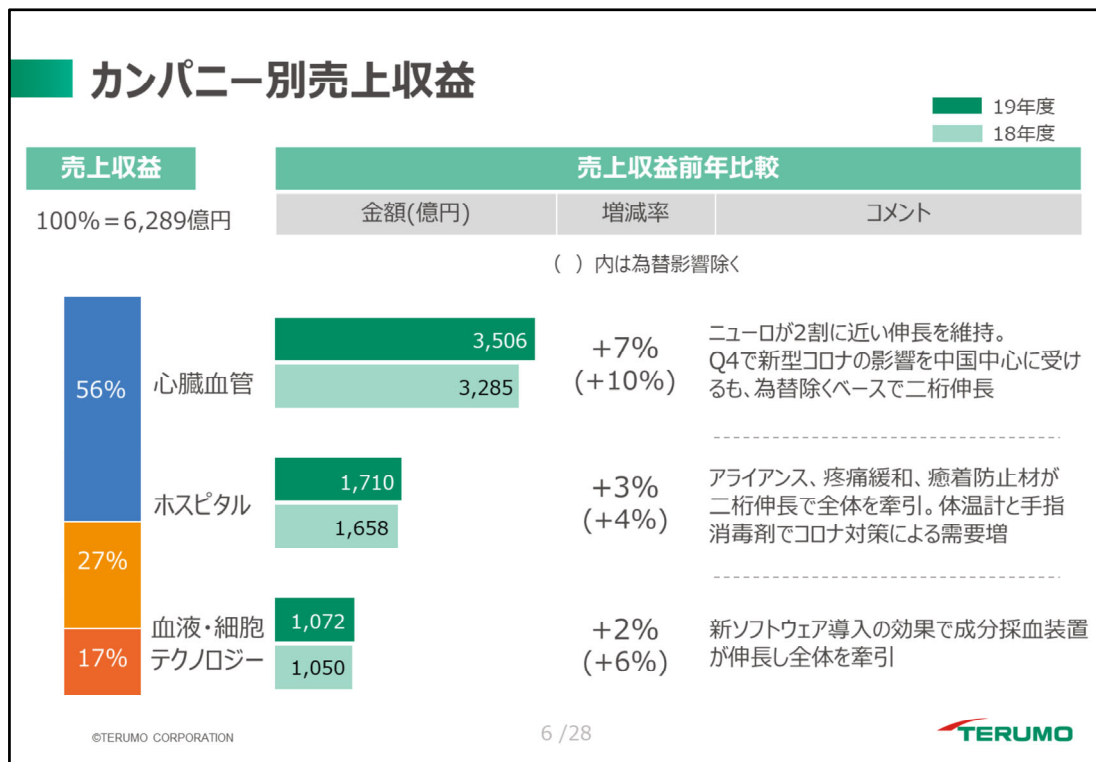
新型コロナについては、心臓血管に対し、Q4に27億円のインパクトがありました。この27億円を振り分けると、2/3が「売上増による売上総利益の増加」に、1/3が「売上総利益率効果」にヒットします。



地域別売上収益です。

日本では、ホスピタルの疼痛緩和やアライアンスが二桁伸長し、全体を牽引しました。海外においては、いずれの地域でも、為替を除くベースで一桁後半から二桁伸長しております。

なお、中国はQ3まで二桁伸長を続けておりましたが、Q4で新型コロナの影響を受け、心臓血管が大幅に減速しました。



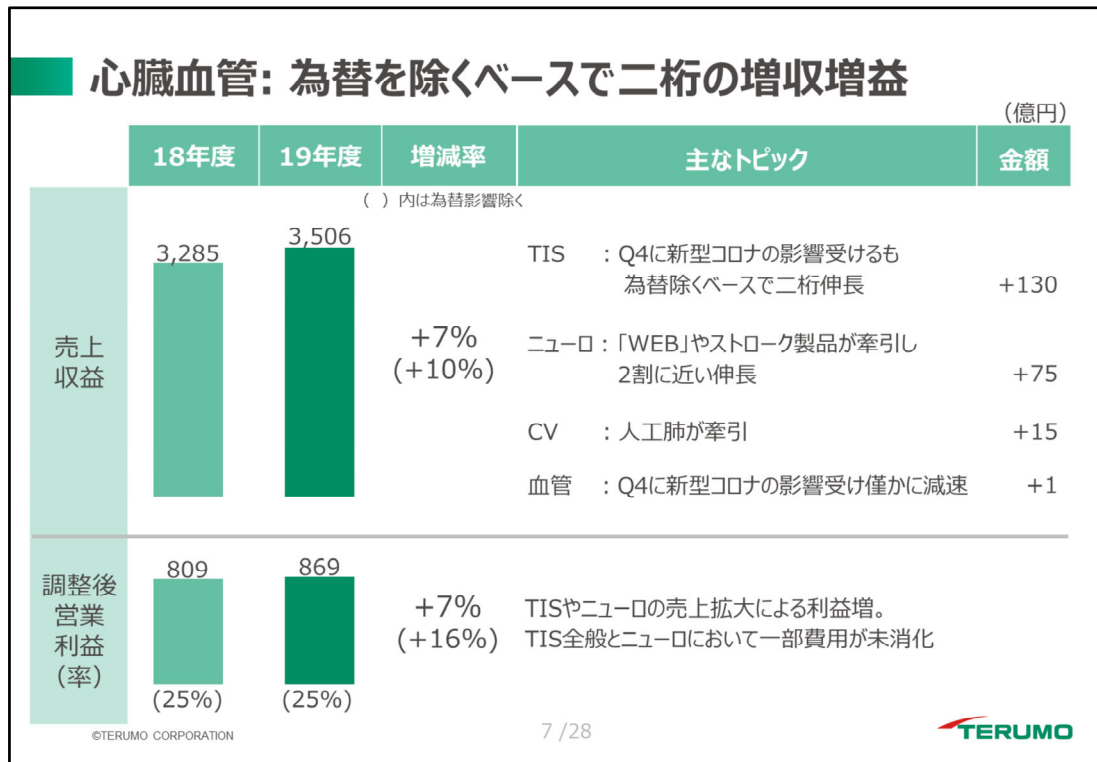
カンパニー別売上収益です。

心臓血管では、ニューロが通期で2割に近い伸長を遂げ、全体を牽引しました。Q4の中国を中心に、新型コロナの影響を受けましたが、為替を除くベースで二桁伸長を維持しました。

ホスピタルでは、アライアンスに加え、疼痛緩和製品や癒着防止材などが、日本を中心に二桁伸長しました。Q4では体温計や消毒剤など、一部の製品で新型コロナ対策による需要増が見られました。

血液・細胞テクノロジーでは、血液センター向けの成分採血装置が全体を牽引しました。

次のスライドより、カンパニー別に詳しくお話いたします。



心臓血管カンパニーです。

売上収益は、為替を除くベースで売上・利益ともに二桁伸長となりました。

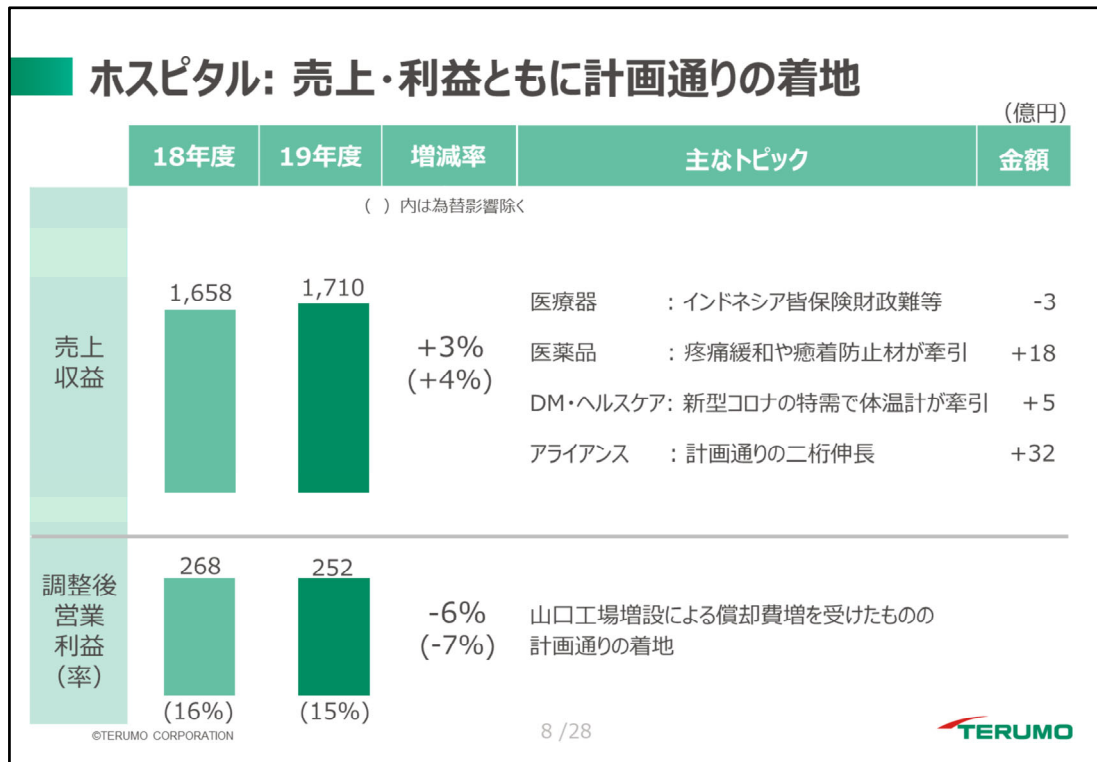
TISでは、Q4の中国を中心に、新型コロナの影響を受けましたが、通期では為替を除くベースで二桁伸長を維持しました。

ニューロは、3月までは新型コロナの影響は限定的でした。WEBや血栓吸引カテーテルSOFIAを中心としたストローク関連製品がグローバルで牽引し、2割に近い伸長となりました。

CVは、人工心肺装置がラインアップに戻ったことで、顧客へのアプローチがしやすくなったことに加え、人工肺が好調に推移し、全体を牽引しました。

血管は、Q4に入り新型コロナの影響を受け、やや減速いたしました。

利益については、収益性の高いTISやニューロの売上拡大が寄与しました。加えて、TISにおける出荷遅延のリカバリー費用や、ニューロのWEBにおける米国立上げ費用などを、上期において使わずに済んだことなどにより、前年同期比7%増、為替を除くベースで16%増の二桁増益となりました。

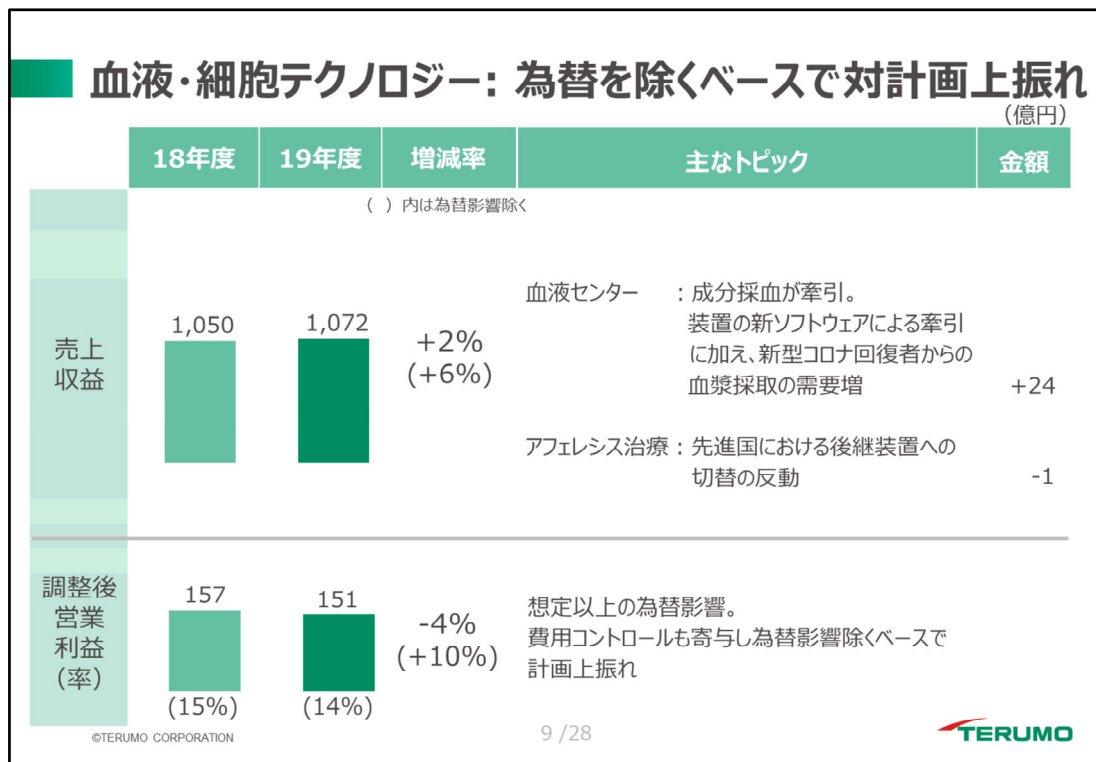


ホスピタルカンパニーです。

売上収益において、医療器は、海外で一時的な需要減がありましたが、医薬品ならびにアライアンスが二桁伸長し全体を牽引しました。

DM・ヘルスケアでは、Q4に新型コロナの対応策として、国内における体温計の需要が拡大しました。

カンパニー全体として、売上・利益ともに計画通りの実績となっております。



血液・細胞テクノロジーです。

売上収益は、血液センター向けの成分採血装置Trimaの新しいソフトウェアを導入したことが、装置やディスポ製品の売上増につながりました。加えて、Q4に入り新型コロナ回復者からの血漿採取の需要が高まったことも寄与しました。

アフレス治療では、アジアや中南米などの新興国において二桁伸長となりましたが、先進国で後継装置切り替えの反動がありました。

全体では、売上収益は2%、為替を除くベースで6%の増収となりました。

利益は、コストや費用コントロールにより、為替を除くベースで計画を上回り二桁増益となりました。

19年度期末配当案は14円

■ 新型コロナ影響を鑑みて19年度配当案を年間28円とする（当初予想から変更なし）

	19年度 実績
当期利益（億円）	852
EPS（円）	114
配当案/株（円）	28.0 中間 14.0 期末 14.0
配当性向	24.6%

19年度の期末配当案ですが、新型コロナの影響を鑑み、当初予想からの変更はせず14円とし、年間配当案を28円。昨年度比で1円の増配といたしました。



■ 主なトピックス


全社

- | 6年連続で「健康経営銘柄」に選定（3月）
- | オーストラリアの森林火災に関して、寄付と支援活動を実施（3月）
- | 温室効果ガス排出量削減目標が、SBTイニシアチブの認定を取得（3月）

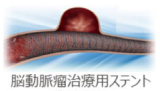
事業

- | 袋状脳動脈瘤塞栓デバイス「Woven EndoBridgeデバイス」の国内における製造販売承認取得を発表（1月）
- | 血流改変ステント「FRED」の米国・販売承認取得を発表（1月）
- | 血流改変ステント「FRED」、日本で保険収載（1月）
- | 強オピオイド鎮痛薬の「フェンタニルクエン酸塩 1日用テープ」を日本で発売（2月）




袋状脳動脈瘤塞栓デバイス
「Woven EndoBridgeデバイス」



脳動脈瘤治療用ステント
「FRED」

©TERUMO CORPORATION

11 / 28



全般的なトピックスについては、詳細の説明を割愛いたします。

全カンパニーが新型コロナウイルスの感染拡大防止や治療へ貢献

■ 心臓血管: 重症患者の治療に寄与「ECMO」

- 1月より増産着手
- 医師・技士・看護師らのチーム支援



■ ホスピタル: 家庭から院内まで、感染の拡大防止に向けて

- 感染管理に配慮した体温計
- 院内感染対策として幅広い手指消毒剤を提供



■ 血液・細胞テクノロジー: 最先端の治療をサポート

- 回復期血漿の採取で成分採血装置を活用
- 病原体低減化技術、新型コロナウイルスへの有効性証明
- 血中サイトカインの減少を目的に、遠心型血液成分分離装置が米国で緊急使用許諾



©TERUMO CORPORATION

12 / 28

TERUMO

こちらは、新型コロナウイルスに関するトピックです。

心臓血管では、ECMOが重症患者の治療に寄与しました。ホスピタル製品では、手指消毒剤などが感染拡大防止に向けて貢献、血液・細胞テクノロジーでは、成分採血装置やアフレスリス治療システムなどが、米国を中心に活用されました。このように、全カンパニーが感染拡大防止や治療に貢献しています。

19年度パイプライン製品のローンチ状況

領域	製品	地域	ローンチ	領域	製品	地域	ローンチ
アクセス	ディスタラジアル用止血デバイス	日	FY21	医療器	次期シリンジポンプ	日	FY20
心臓	PTCAバルーン	欧亜	済み	医薬品	麻酔用鎮痛剤（フェンタニル注射液）	日	済み
ペリフェラル	ステント（TRI）	日米	済み		癒着防止材（アドスプレー・ミニ）	日	済み
脳	袋状塞栓デバイス（WEB）	米	済み	DM・ヘルスケア	持続血糖測定器	日	済み
	中間カテーテル（Sofia EX）	欧米	済み		血糖測定システム	日	FY20
	ミニ・バルーン	欧米	済み		パッチ式インスリンポンプ	日	済み
	血栓吸引カテーテル	日	済み		次期血圧計	日	済み
	ステントリバー	日	済み		次期体温計	日	FY20
CV	次世代人工肺	日	FY20	細胞処理	細胞治療用充填・仕上げシステム（FINIA）	グローバル	済み
	人工心肺装置（再出荷）	日	FY20				
血管	大口径人工血管（トリプレックス・アドバンスド）	日	済み				

©TERUMO CORPORATION

13 / 28



20年度以降にずれ込む製品が幾つかございますが、概ね予定通りに製品ローンチが進みました。

20年度業績予想

- 新型コロナによる影響の合理的算定が困難な為、現時点では未定
- 業績予想の開示が可能となった段階で速やかに開示
- 影響の考え方
 - 心臓血管への新型コロナの影響は比較的大きく、領域と地域によって異なる。
また、時間軸の考慮が必要
 - ホスピタルと血液・細胞テクノロジーへの影響は限定的

20年度の業績予想ですが、新型コロナによる影響の合理的算定が難しく、現時点では未定とさせていただきます。

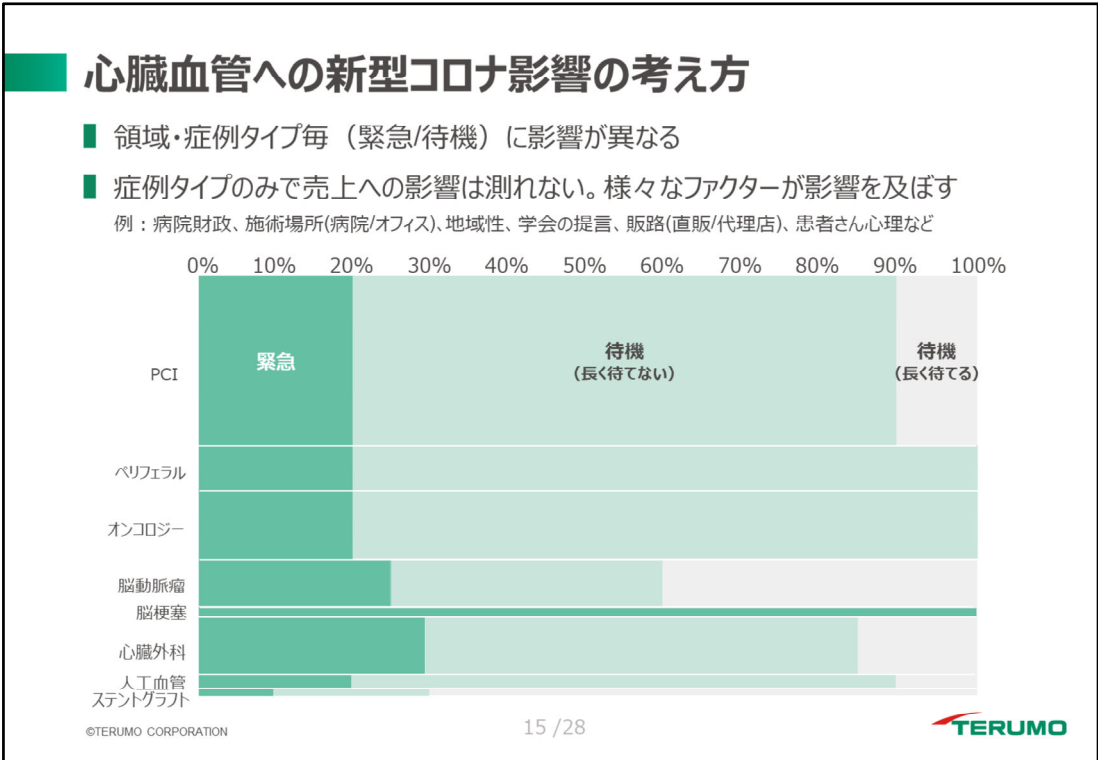
予想が可能となった段階で速やかに開示いたしますので、ご理解を賜れますと幸いです。

カンパニーによって、影響の受け方に濃淡があります。

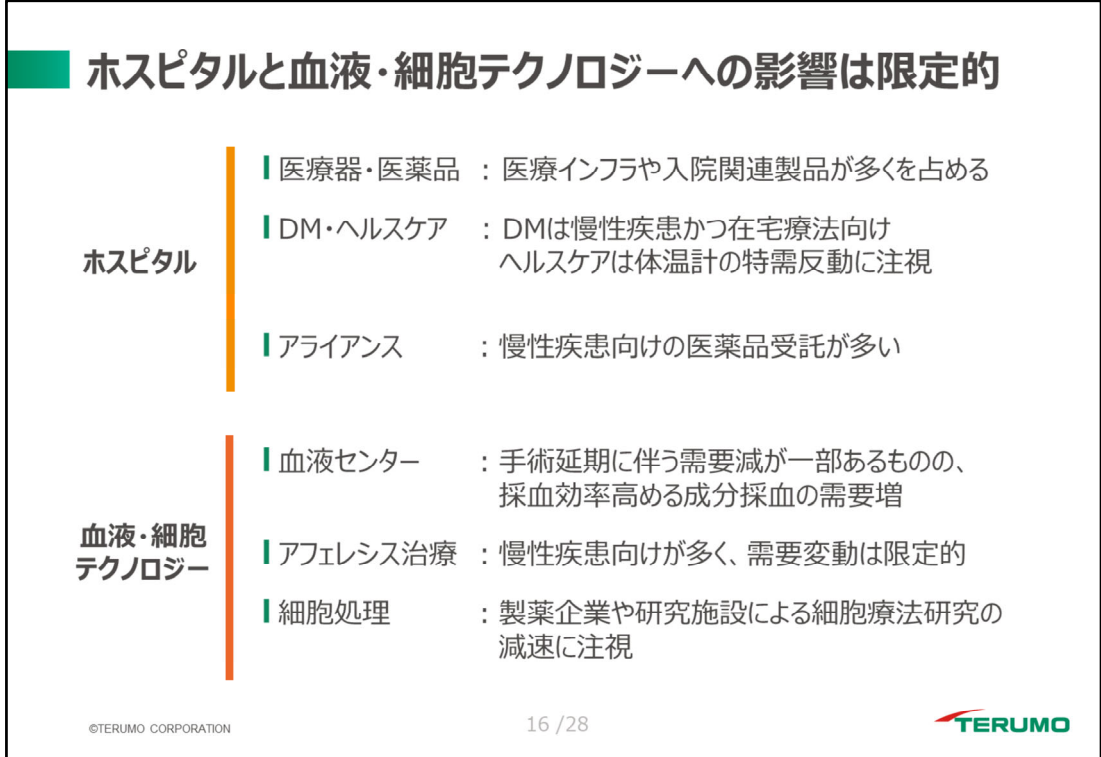
心臓血管においては、待機症例の延期などもあり、比較的影響が大きいと考えています。なお、症例タイプや地域、影響を受ける時間軸など、影響を及ぼすファクターが多数あり、影響額の算定は難しい状況です。

ホスピタルと血液・細胞テクノロジーへの影響は、ゼロではありませんが、心臓血管と比べると小さく、限定的と考えています。

次のスライドで、影響の考え方を詳細に説明いたします。



心臓血管における影響の考え方について説明します。
 図表の縦軸は、売上規模を表しており、横軸は領域毎に、「緊急」、「待機だが長くは待てない」、「待機であり長く待てる」の3つの症例タイプで振り分けています。
 心臓血管の中でも、領域毎に状況は様々であることが見てとれるかと思えます。
 また、実際の売上への影響は、この症例タイプだけでは測ることができず、他にも病院の財政や、手技が病院で行われるのかオフィスベースなのか、販路が直販なのか代理店経由なのかなど、様々なファクターが影響を及ぼすと考えています。
 ご参考までに、4月の売上について状況をお話しします。4月の心臓血管の売上は前年比で30%台半ばの減収となりました。その中でも地域差があり、減収の度合いは米国が一番大きく、欧州、中国、アジア、日本と続きます。5月については、まだ正確なコメントはできませんが、僅かながら回復の兆しが見えており、4、5月でボトムアウトするものと期待しております。



ホスピタルにおいては、医療インフラや入院に関連する製品が多いことに加え、DMやアライアンスなどは、慢性疾患向けの製品や技術が多いことから、影響は比較的軽微であると考えています。

血液・細胞テクノロジーにおいては、手術の延期などで採血の需要減がみられるものの、採血効率の高い成分採血においては、その度合いが小さい状況です。細胞処理は、製薬企業や研究機関による開発の減速に注意が必要ですが、アフェレシス治療は慢性疾患向けの使用が多く、大きな需要変動は見ておりません。

なお、ホスピタルと血液・細胞テクノロジーの4月の売上の状況は、ともに顕著なマイナス影響はなく、例年並みとなりました。3カンパニーを合計した会社全体の4月の売上では、前年比で10%台半ばの減収となりました。心臓血管においては5月に回復の兆しが見えておりますが、今後の回復モメンタムに注視してまいります。

20年度パイプライン製品

■ 新型コロナによる影響を一定レベル織込むも、更なる開発遅延等に要注視

領域	製品	地域	領域	製品	地域
心臓	ステียรラブルシース	日	血管	腹部ステントグラフト	米
	PTCAバルーン(Essen社製)	中	医療器	次期シリンジポンプ	日
イメージング	IVUSカテーテル	日		次期針刺し防止機構付留置針	日
オンコロジー	生分解性薬剤溶出型ビーズ	欧		Open-TCI用シリンジポンプ	欧亜
	末梢血管塞栓用プラグ	米	医薬品	強オピオイド鎮痛薬	日
脳	血流改変ステント	日米	DM・ヘルスケア	次期持続血糖測定器	日
	バルーン付きガイドカテーテル	欧		血糖測定システム	日
	頸動脈ステント	日		次期体温計	日
	袋状塞栓デバイス (Woven EndoBridgeデバイス)	日			
カーディオバスキュラー	次世代人工肺	日			
	人工心肺装置(再出荷)	日			
	オフポンプ用臓器固定器具	グローバル			

©TERUMO CORPORATION

17 / 28



今年度の新製品です。詳細の説明は割愛いたします。

20年度 流動性確保とキャッシュアロケーション

流動性確保策

- 19年度400億円の資金調達済み (19年度末資金 月商比約3.2ヶ月)
- 更なる備えとして、上記とは別枠で600億円の融資枠を設定済

20年度 キャッシュ アロケーション

- 新型コロナ終息後の更なる成長へ成長投資は継続
※「持続的かつ収益性のある成長」に資するM&A機会は追求
- 足元の不急な経費・投資案件は見直し
- 配当は年間28円で当面据え置き
(コロナ影響が終息後、従前の方針に従い、増配へ回帰)

次に当社の資金の状況について少しお話しします。

まず流動性については、既に昨年度内に400億円を調達しており、十分な手元資金を有しておりますが、更なる備えとして、別枠で600億円の融資枠を設定済みです。

続いてキャッシュアロケーションについては、新型コロナの状況下であっても、健全な財務を維持できていることから、中長期的な投資は継続していきます。M&Aに関しても、持続的かつ収益性のある成長に資する案件は、これまでと変わらず追求します。一方、不急とみなすことのできる経費や投資案件は見直していきます。

最後に20年度の配当ですが、新型コロナの影響が読み切れない状況を鑑み、19年度案と同額の年間28円で据え置きいたします。新型コロナが終息した後、状況を見定めながら、これまでのポリシーに従って増配へと回帰していきたいと思っております。

ご清聴ありがとうございました。

参考資料

事業別・地域別売上収益と伸長率

(億円)

事業 セグメント	日本	海外					合計
		計	欧州	米州	中国	アジア	
心臓血管	509 (+6%)	2,996 (+11%)	862 (+8%)	1,384 (+14%)	395 (+9%)	356 (+13%)	3,506 (+10%)
うちカテーテル※	380 (+6%)	2,460 (+13%)	701 (+9%)	1,095 (+16%)	370 (+9%)	293 (+12%)	2,840 (+12%)
ホスピタル	1,329 (+4%)	381 (+4%)	93 (+3%)	91 (+10%)	25 (-2%)	172 (+2%)	1,710 (+4%)
血液・細胞 テクノロジー	123 (-2%)	948 (+7%)	256 (+5%)	440 (+8%)	53 (+5%)	200 (+10%)	1,072 (+6%)
合計	1,963 (+4%)	4,326 (+10%)	1,211 (+7%)	1,914 (+12%)	473 (+8%)	728 (+9%)	6,289 (+8%)

※TIS事業とニューロバスキュラー事業の合計
()内は為替影響除く前年比伸長率

販管費

(億円)

	18年度	19年度	増減	増減率	為替除く 増減率
人件費	874	898	+24	+3%	+6%
販促費	182	197	+14	+8%	+10%
物流費	136	139	+3	+2%	+5%
償却費	143	189*	+46	+32%	+35%
その他	451	423*	-29	-6%	-4%
一般管理費計	1,787 (29.8%)	1,845 (29.3%)	+59	+3%	+6%
研究開発費	477 (8.0%)	506 (8.0%)	+29	+6%	+8%
販管費合計	2,263 (37.8%)	2,351 (37.4%)	+88	+4%	+6%

*償却費とその他において、IFRS16号（リース会計）により組み替え

©TERUMO CORPORATION

21 / 28



四半期の動き

(億円)

	18年度Q4 (1-3月)	19年度Q1 (4-6月)	Q2 (7-9月)	Q3 (10-12月)	Q4 (1-3月)
売上収益	1,559	1,525	1,548	1,629	1,588
売上総利益	843 (54.1%)	852 (55.8%)	863 (55.8%)	872 (53.5%)	853 (53.7%)
一般管理費	467 (29.9%)	445 (29.2%)	451 (29.1%)	472 (29.0%)	477 (30.1%)
研究開発費	116 (7.5%)	118 (7.8%)	125 (8.1%)	127 (7.8%)	136 (8.6%)
その他収益費用	21	4	13	-2	4
営業利益	282 (18.1%)	292 (19.1%)	300 (19.4%)	271 (16.6%)	244 (15.3%)
調整後営業利益	309 (19.9%)	339 (22.3%)	331 (21.4%)	314 (19.3%)	266 (16.7%)

四半期	USD	110円	110円	107円	109円	109円
平均レート	EUR	125円	123円	119円	120円	120円

©TERUMO CORPORATION

22 / 28

 TERUMO

調整後営業利益: 調整額

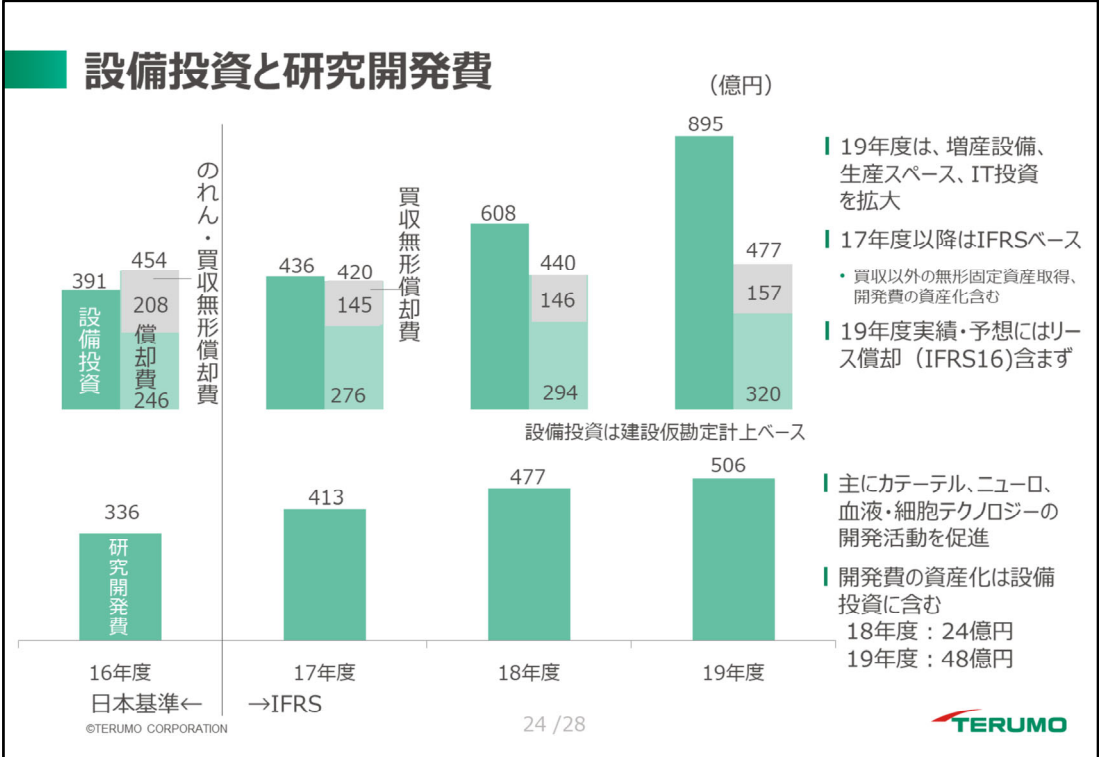
(億円)

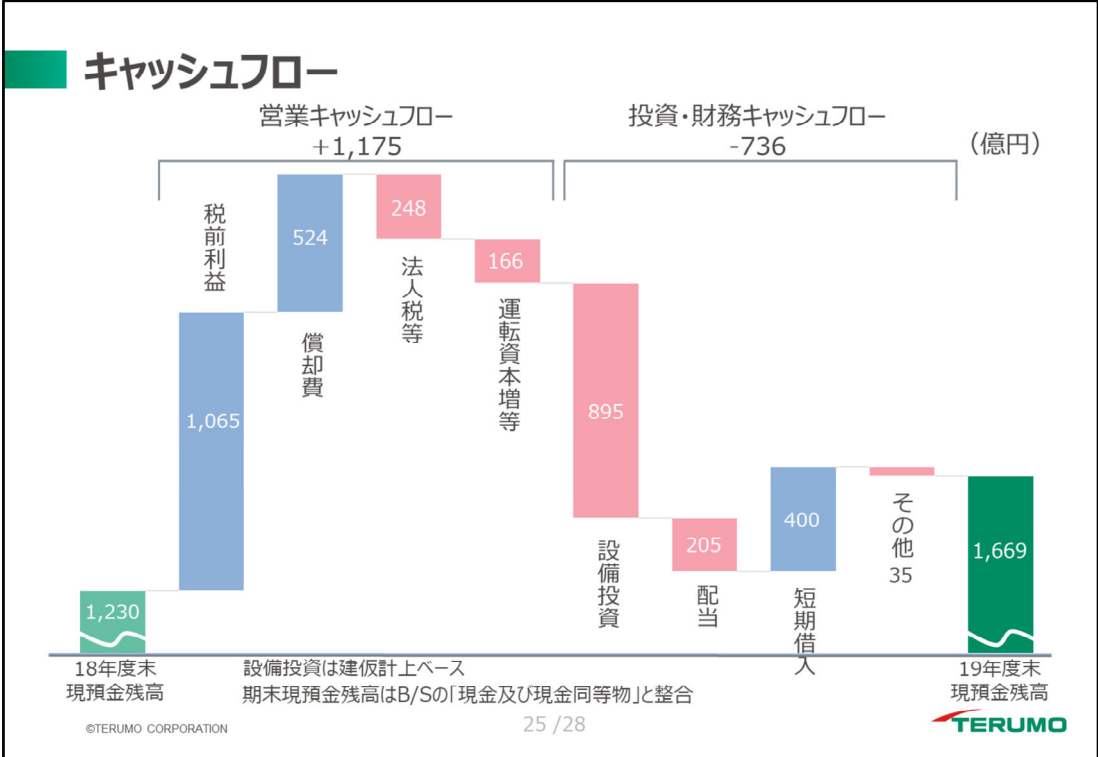
	18年度	19年度
営業利益	1,066	1,106
調整① 買収無形資産の償却費	+146	+157
調整② 一時的な損益	+9	(※) -13
調整後営業利益	1,221	1,250

※ 調整項目

- 買収関連費用
- 訴訟関連損益
- 減損損失
- 事業再編費用
- 損害保険収入
- 災害による損失
- その他一時的な損益

(※) 19年度 調整②「一時的な損益」の主な項目	調整額
事業再編コスト	+15
プエルトリコ工場災害保険金受取	-12
その他	-15





為替感応度

1 円の円安に対しての年間影響額 (億円)

	USD	EUR	人民元
売上収益	17	8	24
調整後営業利益	0	5	13

<参考> 10%円安に動いた時のインパクト

	北米	中南米	欧州		アジア	
			ユーロ圏	その他	人民元	その他
調整後営業利益	-1	10	65	13	20	36

■ 転換社債の状況

■ 社債明細 (2014年12月起債)

※2019年4月に実施した株式分割考慮

満期	発行額 (億円)	金利	転換価格 (円)	転換制限 価格 (円)	転換の場合 必要となる株数
2019年12月	500	0.0%	1,919	2,495	約26百万株
2021年12月	500	0.0%	1,919	2,495	約26百万株
計	1,000				約52百万株

■ 転換状況 (2020年4月30日時点)

対象社債	転換行使額 (対象社債総額比)	交付株数 (発行済株式総数比)
2019年12月満期	500億円 (100.0%)	26百万株 (3.4%)
2021年12月満期	452億円 (90.5%)	23百万株 (3.1%)
合計	952億円 (95.2%)	49百万株 (6.5%)

■ 転換行使による株式交付は自己株式を充当

- 自己株式の状況：5百万株(2020年4月末時点、取得単価1,949円、発行済総数比0.8%)

■ おことわり

テルモの開示資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。様々な要因により、実際の業績等が変動する可能性があることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、テルモの事業領域を取り巻く経済情勢、為替レートの変動、競争状況などがあります。